

## 朝鮮民主主義人民共和国創建後の 75 年

ヨーロッパ・チュチェ思想研究学会副理事長  
フィンランド・チュチェ思想研究会会長  
ユハ・キエクシ

いまから 75 年前、朝鮮民主主義人民共和国(以下、朝鮮)が創建されました。日本帝国主義の占領統治から解放されて数年のうちに朝鮮は創建され、金日成主席の指導のもと、自主的な社会の建設が開始されました。以後、75 年の間に、朝鮮は立ち遅れた農業社会から強力な工業国へと発展を遂げ、すべての人民が平等に基本的な福利厚生を享受できるようになりました。朝鮮では、無償医療、幼稚園から大学までの無償教育が実施されており、人々は手ごろな費用で住宅を利用することができ、すべての人に雇用が保障されています。朝鮮では税金が撤廃されました。

朝鮮において、このような発展がどのようにして可能になったのかを、わたしたち自身が探究すべきです。

金日成主席によって創始されたチュチェ思想にもとづいて、朝鮮は、創建当初から自主性の実現をめざして前進してきました。金日成主席は、チュチェ思想の指導原則について明らかにしました。それは、政治における自主、経済における自立、国防における自衛です。

### 政治における自主

政治的自主を実現するためには、社会が、自国の具体的な実情を考慮しながら、人民の需要を満たす方向で発展しなければなりません。社会が大資本の利益を満たす方向ですすむなら、政治的自主はわたしたちからますます遠ざかってしまうでしょう。残念ながら、フィンランドでは、このような不幸な事態が顕著になっています。

ところで、政治的自主イコール孤立ではありません。朝鮮はいつでも平等な立場ですべての国と協調関係を結ぶ用意があります。資本主義のメディアは、朝鮮が孤立していると言います。帝国主義的な主張にもとづくなら、明らかにそうなります。資本主義のメディアによれば、帝国主義の秩序に与しない国はみな、孤立していることとなります。

帝国主義者は、平等の立場で朝鮮と協調関係を結ぶつもりはまったくありません。帝国主義者は、朝鮮の天然資源を強奪することに関心があるのです。もしくは、朝鮮人民の利益ではなく、帝国主義者にとって利益となるよう、朝鮮半島にたいする影響

力を強めることにしか関心がありません。

## 経済的自立

政治的自主を実現するためには、国は、経済的にも自立しなければなりません。朝鮮では、人民生活に必要なすべての供給と福利厚生事業が、人民自身によって、自己の天然資源を活用し、自国人民の技術力と力量に依拠することによっておこなわれています。

豊かな暮らしの源は、労働にあります。資本主義制度では、生産手段の所有者が、労働者によって生み出される付加価値を自己のものにします。その割合がかなり高いのです。一方、社会主義では、労働者によって生み出される付加価値は、全人民の所有として蓄積されます。生産手段の所有者である資本家が、剰余価値の大部分を自己のものとし、かつ資本家はその利用の仕方を決定していくかぎり、民衆は、自主的な存在にも、自己の運命の主人にもなれません。したがって、自主性を実現するためのたたかいは、社会主義を実現するためのたたかいと連動しています。

資本主義制度のもとでは、すべての労働者に雇用が保障されておらず、かならず失業者がでてきます。資本主義社会では、失業者がいなくてはならないのです。失業者がいることで、労働者の賃金を人為的に低く抑えることができます。資本家はこうして、労働者自身によって生み出された付加価値の大部分を自分のものにすることができます。

それとは対照的に、朝鮮では、完全雇用制がとられています。それは、民衆の自主性を高めます。社会の一員として就労することが、各自の基本的要求となります。

経済的自立に向けて力量を投じず、結果として帝国主義者の支配下におかれた国々の多くの事例を、わたしたちはよく知っています。事実、帝国主義者の支配下におかれた国のほとんどが、外国の大資本の利益をはかる政策を推進するよう、強要されています。外国の大資本の利益と民衆の利益は、つねに鋭く対立しています。このようなほとんどの国では、国の自主権は弱められています。事実、自主権が強められている国は、朝鮮以外にはありません。

## 国防における自衛

朝鮮は、創建以来、帝国主義者の攻撃の的であったので、軍事力と国防における自衛に大きな力量を投じてきました。創建してまもなくであったにもかかわらず、朝鮮は、朝鮮戦争で米帝国主義者を打ち負かすことができました。解放後から朝鮮戦争勃

発にいたるまでの期間に、朝鮮人民は、金日成主席の指導のもとに、どれほどの成果がどれほど急速に達成されるかを目の当たりにしていました。事実、1950年まで、日本帝国主義による奴隸的支配から脱した朝鮮は、大きな進歩を遂げていました。このような状況のもとで、朝鮮人民は、米帝国主義者の攻撃に一丸となつてたたかっていました。

しかし、朝鮮人民が朝鮮戦争に勝利しても、帝国主義者の朝鮮にたいする攻撃は終わりませんでした。さまざまな攻撃がこんにちに至るまで続いています。

20世紀初頭から、そして、ソ連・東欧諸国における社会主義の崩壊後も、帝国主義者は、朝鮮にたいする攻撃を強化しつづけました。当時、金正日総書記の指導のもとで、先軍政治が打ち出され、朝鮮では一時も中断することなく、革命の継続が保証されました。

21世紀に入り、金正恩総書記は、国防力を質的に新たな高い段階に引き上げました。帝国主義者は、朝鮮にたいしてさらに大規模な経済制裁をおこないました。しかし、政治、経済、国防において自主性を貫く、長期にわたる政策により、経済制裁がおこなわれようが、朝鮮経済を崩壊させることはできませんでした。朝鮮以外のどのような国も、あのような厳しい制裁にはもちこたえることはできなかつたでしょう。これは、チュチェ思想の威力を示すものです。

朝鮮人民は、高度な思想意識をもっています。朝鮮人民は、思想的覚醒の重要性を深く認識しています。なぜなら、帝国主義者は常時、さまざまな方法を使って、朝鮮を標的にして反社会主義宣伝をおこなっているからです。

高い思想意識により、指導者と党の指導のもとに、全朝鮮人民が、団結して帝国主義者の攻撃に反対してたたかっています。そのことにより、朝鮮は、資本主義のプロパガンダや帝国主義の武力をもってしてはうち負かすことのできない、不敗の国家となったのです。

人々の思想意識を高度に保つうえで重要なことは、朝鮮と世界の変化する情勢に呼応して、チュチェの思想理論をたえず発展させていくことです。金日成主席によって開始された思想理論活動は、金正日総書記によって、そして金正恩総書記によって独創的に継承されました。

チュチェ思想の根本原則にもとづく社会主義建設によつてのみ、真の自主・独立が達成されます。歴史は、それ以外の方法はありませんことを示しています。

チュチェ思想研究者であるわたしたちの課題は、わたしたち自身の状況にもとづいて、自国において自主性を促進していくことです。わたしたちは、朝鮮の経験に学ぶべきです。しかし、そのことと同時に、わたしたち自身が、自国においてチュチェ思想の根本原則をいかに適用できるかが重要なことです。金日成主席は、いみじくも、

革命は他のだれかによってもたらされるものではないと言いました。金日成主席の発言は正しいといえます。革命は各国人民の必要性からおし進めていかなければなりません。

こんにち、資本主義諸国においては、人々の自主意識が低いがゆえに、また、資本主義のメディア、資本主義の宣伝体制が資本家によって牛耳られているがゆえに、自主性を確立することが、たいへん困難です。民衆を一人ひとりこの活動に結集していく以外に方法がありません。このことは、チュチェ思想を普及する継続的な活動を必要とし、民衆にチュチェ思想の内容を示していくことを求めます。

資本家がメディアを独占していても、資本主義は永遠につづきません。利潤にたいする果てしなき欲求は、資本主義を危機に陥れ、戦争を頻繁にひき起こします。しかし、状況が悪化すると、人々は、別の思想に注目するようになります。

朝鮮の歴史は、チュチェ思想の威力と指導の重要性を示すすばらしい事例です。朝鮮において社会主義を建設することは容易なことではありませんでした。しかし、朝鮮の社会主義はつねに発展しつづけてきました。もしわたしたちが世界の変革を願うのであれば、チュチェ思想を普及し、自国に適用することが唯一の方途となります。